

ふるさと 再発見

広川町郷土史研究会

広川町にある巨樹・珍樹 その20

～ドングリの多様な仲間たち～

クヌギ (ブナ科コナラ属)

一般的に「ドングリ」と呼ばれる実には、シイ・イチイ・クリ・ブナ・カシワ・カシ・ナラなど、多くの仲間があります。今回紹介するクヌギは、ドングリの本を代表するものです。椎茸の原木栽培に欠かせない木としてもよく知られています。

クヌギの樹名の語源は、「国木」であるらしく、古くは「歴木」の字が当てられています。

石人山古墳では、樹木調査の際に多くのクヌギが確認されました。その内の1つの法量は、

幹周 1・5メートル
樹高 約30メートル
推定樹齢 約100年
を測ります。

クヌギは風によって受粉する風媒花で、春に開花受粉し、次の年の秋に実が成熟する2年生です。ドングリの実の形を比べると、ほぼ球型に近いものから樽型のもの、肩や首の部分が尖ったものまで、バリエーション豊かです。実は



▲石人山古墳のクヌギ

地面に落下すると、約25か月で発芽します。その間にゾウムシが卵を産み、実の中で幼虫が成長します。これがいわゆる「クリ虫」として、釣り餌で重宝されていることは、多くの人に知られています。さて、ドングリには仲間が多いと前述しました。当連載その11(令和7年7月号)で紹介したツブラジイとスダジイもドングリの仲間です。シイの実を生で食べることができ、苦味やあくもほとんどありません。シイの実以外は食べないのはこのあくが強いためであって、今から約

3000年前の縄文時代の人々は、これらドングリの仲間を多く食べていたことが、発掘調査で確認されています。以前に古墳まつりで、ドングリクッキーの提供がありました。ただ、工夫次第で美味しくいただける非常時の備えの一つとして、知っておいて損はないでしょう。

シイの実さえ拾うことが少なくなつた今日。子どもこの夢中でドングリを集めたことを思い返せば、自然の恵みに頼らずとも暮らせる今の時代は、まるで別世界のように感じられます。

広川町古墳資料館だより

広川町内の個人が所蔵していた高札が、町に寄贈されました。江戸時代の吉常村に立てられていたもので、久留米藩からの「狼藉者(暴れ者)がいたときは藩に連絡しな

い」というお達しを人々に伝える御触書です。

江戸時代の広川町の姿を示すもので、筑後地方に残る貴重な資料の一つといえるのではないのでしょうか。



▲吉常村の御触書高札